

視覚障がい者へ公約



選挙公報を吹き込んだテープを手にするスタッフ＝6日、那覇市松尾の沖繩視覚障害者福祉センター

「音の選挙公報」配布

那覇市長選 県内自治体で初導入



11日投開票の那覇市長選に向け、県視覚障害者福祉協会(山田親幸会長)は6日、選挙公報の内容を吹き込んだテープを作り、目に障がいのある人が暮らし、目に障がいのある人が暮らし、視覚障がい者たちは「情報を得る

大切な取り組み」と喜んでいいる。県内選挙では6月の糸満市長選でボランティア団体が選挙公報を音訳したCDを作ったが、自治体として選挙公報の音声テープに取り組むのは初めて。テープは候補者1人当たり5、6分で、政策やスローガンなど紙の選挙公報の内容を吹き込んだ。県視覚障害者福祉協会のメンバーで、目に障がいのあるのは花光英さん。那覇市は「視覚障がい者は情報が得にくい状況にあるが有権者だ。候補者のPRが届くのは大切で、この取り組みは助かる」と話した。